



1996年3月ワールド・オーケストラ・フェスティバル国立ボヘミア交響楽
団エドワルド・マルトゥット指揮アムステルダムコンセルトヘボウ大ホールに
て2回公演。(Photo 木之下晃)

東京芸大を卒業した年に、ピティナの前身である東京音楽研究会に関わらせていただいたから、早や43年の月日が流れました。ピティナへの入会年月日は、創立者の福田靖子先生と同じ1966年4月1日。ピティナの発足当初は、東京で邦人作品に関する研究

素晴らしさに驚いたものです。その後、成康専務理事に受け継がれ、ピティナが益々発展していることは、皆様ご存じの所です。私はドイツと日本と往復しながら演奏活動を致しております。本年は演奏活動40周年を迎え、その記

巻頭随筆

演奏家と教師の40周年

杉谷昭子先生文

会が行われていましたが、やがて福田靖子先生は全国を歩かれ、ピティナの基盤を作られました。靖子先生からの御用命により、悪い例と良い例を初見で弾きわけるといふ役目で各地をお供しました。ピアノ教育への情熱を自

念コンサートを終えたところです。自由に演奏活動をした私には、どこへも勤務せず、個人レッスンのみしてまいりました。指導者としても40周年を越え、こちらも全力投球で疾走して参りました。四百名の生徒の中には、赤松林太郎、秋田悠一郎、根津理恵子、現在二

宮裕子先生の生徒の小林愛実など、ピティナや国際コンクールで活躍しているメンバーがいて喜ばしい限りです。また、国内外のコンサートを多数準備し、演奏経験を通して多くのことが学べる様になっています。私の指導法は個性重視です。生徒の長所はほめて、基本と論理(ロゴス)を妥協なく徹底した上、情感(パトス)が勝つようにします。さらに、もう一つ、温故知新はとても大切だと思っています。どのジャンルでも長い歴史と伝統があり、それを無視してよい演奏は出来ません。私はウイールヘルム・ケンプの高弟と、ブルーノ・レオナルド・ゲルバー、アレクシス・ワイセンベルク、クラウディオ・アラウに師事、マルタ・アルゲリッチとの深い親交から戴いたエッセンスを生徒に伝えます。興味深いことに、これらの超一流演奏家の演奏スタイルは違っているにも関わらず、合理的な奏法に共通点があることに気づいたので。奏法が合理的であることは、どこにも無理がかからないので私がこの年齢になっても引き続けることができ、また生徒各々の体型、個性の相違に関わらず、各々に合った奏法を引き出せるのです。

定義は難しいです。教育はしなければいけません、が、し過ぎると個性をつぶします。教育をし過ぎると、グレン・グールド、アルフレッド・コルトー、ウラディミール・ホロヴィッツは存在していません。日本の音楽のあり方を「受験用音楽」と、ウイールヘルム・ケンプがいみじくも言いましたが、いつもキーの底まで深くでなく、ハーフタッチも使用、和声感の豊かな美しい音を作りたいものです。プラームスとベートーヴェン全集を終えた今、私は演奏・教育活動共に41年目のスタートを切ります。長い間支えて下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

■主な演奏会スケジュール

- 夏休み・杉谷昭子のヨーロッパ舞曲ツアー
2008年8月9日(土)
かつがシシフォンニヒルズ アイリスホール
※詳細は56ページ
- ライブツィヒ、ゲヴァットハウス
弦楽四重奏団と共演のタバ
2008年12月1日(月)浜離宮朝日ホール
- 日本を代表する16人のピアニスト
による ベートーヴェンピアノソナタ
全曲演奏会
2008年12月31日(水) / 2009年1月1日(木)
東京オペラシティホール



すぎたにしょうこ ●ピアニスト、
東京芸大卒、ケルン国立音
音大大学院修、当協会評
議員、PTNA かつしかキャ
ツステーション代表

※写真は徹子の部屋「下町